



H19. 1.26 1227
静岡県漁業協同組合連合会
☎054-254-6011 Fax054-253-9343
編集・発行 = 指導部 漁政課
URL: <http://www.jf-net.ne.jp/sogyoren/>

1. 第12回県青年・女性漁業者交流大会 シンポジウムが開催される

県並びに本会主催(後援: 県信漁連)による第12回静岡県青年・女性漁業者交流大会を、2月19日もくせい会館(静岡市)において、県下漁協青壮年部・女性部員等約80名の参加を得て開催しました。今大会は、例年の活動発表形式を改め「静岡県漁業の次世代を担う『人』・『組織』づくり」をテーマに、シンポジウムを開催して意見交換を行いました。

大会は、県農業水産部坂総室長、本会西川会長による主催者挨拶のあと、県水産振興室村中室長より「水産基本政策プログラムの視点について」、同今井副主任より「山口県の新規就業者支援制度について(事例報告)」、伊豆の国農協営農事業部太田次長より「JA伊豆の国における担い手対策について」それぞれ話題提供がなされました。

引き続き行われたパネルディスカッションでは、地域と漁業現場における現状と課題「今何が問題になっているか?」「人づくり」「組織と事業づくり」について、8名のパネラーより夫々の立場から活発な意見交換が行われました。参加者の県立焼津水産高校長谷川校長からは「職業体験などを含め、是非、若者を海に誘って下さい」などと述べられたほか、会場からも多数の発言がありました。

最後に、この場を通じて例年研究発表を行っている県立焼津水産高校マリン開発科3年の田中 淳君が、「焼津 浜当目沖の築磯調査」と題した研究成果発表を行いました。

コンピナー: 村中文夫 県水産振興室長 影山佳之 県水試漁業開発部長 河尻正博 県漁連指導担当参事 パネラー: 平山敏郎(南伊豆) 塩谷泰則(内浦) 白柳英明(浜名) 斉藤政和(静岡) 杉本照幸(大井川町) 首藤成昭(静岡) 吉田朱美(由比港) 渥美 敏(県水試) (敬称略 カッコ内は所属)

2. 深層水ミュージアムへ来場者が10万人

新焼津漁港の深層水ミュージアムの入場者が1月19日、10万人を達成しました。10万人目となったのは焼津市内の服部さん親子で、戸本焼津市長と一緒にくす玉を割ったほか、記念品が贈呈されました。

同ミュージアムは、市が児童・生徒や一般市民に駿河湾深層水について情報発信することを目的に平成16年4月に開館し、1階が駿河湾や深層水を映像・パネル・模型などで紹介する展示室、2階は簡単な実験やセミナーができる研修学習室となっています。

また、平成18年7月には、深さ687cmからくみ上げた深層水を掛け流して、タカアシガニなどを飼育する大型水槽も1階に設置されています。

3. エルニーニョ現象が春に終息の可能性

気象庁はこのほど、昨年12月の太平洋赤道域における海水温などの状況及びエルニーニョ監視海域(北緯5度 - 南緯5度、西経150 - 90度)の海面水温の今後の見通しを発表しました。

それによると、同月のエルニーニョ監視海域の海水温は、当海域の基準値との差がブ

安全・安心な水産物供給と活力ある漁業づくりに努めよう

自立漁協の構築に向け合併・事業統合を進めよう

ラス1.1度Cで、太平洋赤道域の海面水温はほぼ全域で平年より高く、中部から東部にかけて平年より1度C以上高い海域が見られました。

同庁は、監視海域の海面水温は冬の間は基準値よりやや高い値で推移し、春以降は基準値に近い値で推移すると予測され、現在のエルニーニョ現象は春には終息する可能性が高いとみています。

4. 食のマッチング支援事業 セミナー開催のお知らせ

県食料産業クラスター協議会では、食のマッチング支援事業の一環として、「生産者(農林水産業)・食品産業・消費者の連携を目指して」をテーマに、セミナーを開催します。

本県は、駿河湾・浜名湖に代表される海の幸や伊豆を始めとする山の幸など、豊かな食材に恵まれた地域の農林水産業との結びつきが強く、地場産業として大きなウエイトを占めています。また、昨今では「食の安全・安心」が注目を浴びるとともに、地産地消の意識が年々高まっています。

セミナーは、川上から川下までの連携の効果的な取り組み方法や、本県が重要施策に掲げている「ユニバーサルデザイン」に焦点を当て、地産地消の今後のあり方や新商品開発などへのヒントを見つけ出すことを狙いにしています。

日時: 平成19年2月9日(金) 13:30~16:00 場所: ホテルプリヴェ静岡ステーション 参加費: 1,000円 定員: 80名 問合せ申込先: 県食料産業クラスター協議会 連携組織支援課 TEL: 054-254-1511

5. 県TAC(漁獲可能量) 12月末漁獲実績を発表

県ではこのほど、TAC対象魚種(12月末現在)の漁獲実績を発表しました。それによるとサバ類は11,256トンで、TAC数量が若干量の魚種では、マアジ2,168トン、マイワシ646トン、スルメイカ454トン、サンマ29トンの漁獲となりました。

なお、マサバ及びゴマサバの管理期間は、これまでの1月1日~12月31日より7月1日~6月30日に変更になりました。18年TACについては、7月が新たなスタート月として遡りカウントされることとなります。

6. 新刊図書紹介 「随筆で楽しむ日本の魚辞典・海水魚」

錦秋社よりこのほど、「末広恭雄選集1 随筆で楽しむ日本の魚辞典・海水魚」が発刊されました。本書の著者の末広氏は、日本を代表する魚類学者であり、「魚博士」と呼ばれて親しまれ、昭和63年に惜しまれながら他界しました。

本書では、魚の生態はもちろん、魚にまつわる伝説や釣りの新知識、絶品の魚料理まで、これまでの末広氏の全仕事から名作・傑作といわれるものを余すところなく網羅した一冊で、監修・追補は三重大学大学院の木村助教授が行っています。

今後、順次「淡水魚」「外国産魚」「水棲生物」などのカテゴリー別に刊行する予定です。 定価: 2,800円(税別) 四六版400頁 問合せ先: 錦秋社 TEL: 03-5921-5081

7. 会議・日程(1月30日(火)~2月12日(月))

- 既報分省略 -

1月31日(水) 県漁連 = 合併推進本部会議 (県水産会館)

2月 9日(金) 県遊漁船業協会 = 安全指導講習会 (御前崎漁協)

2月10日(土) 県棒受鯖釣漁業組合 = 通常総会 (静岡市)

漁協系統事業の全利用運動を進め組織の強化を図ろう